

調査研修報告書（議員用）

報告者：吉川 遼也

実施場所：一橋大学学術総合センター	実施日：令和4年5月19日、20日
■目的・課題・問題事項（調査・研修に先立っての思いや本市の現状 など） 第14回日本自治創造学会研究大会に参加した。地方自治の立場から、地方の課題、最近の傾向、特に先進的に地方活性化に取り組む市町の首長及び仕掛け人が事例を紹介し、意見交換を行った。本市においても特に課題となる、人を呼び込む仕掛け、元気な地方自治を行うヒントが様々な事例とともに紹介された研修であった。昨今のトレンドとしては、確実に若者世代が地方へ目を向けている。人を呼び込むためには、現に住んでいる市民の幸福度を上げることが最も重要なのではと検討してきたが、まさに発表事例も同様の事例が多く紹介されていたように思う。	
■参考とすべき事項 海士町の事例 移住してきた人材が中心となって地域づくりを行う。町長が移住者の意見を真剣に聞き、取り入れ、任せるといったことで、地域にいる方と移住してきた方が共に、地域風土を活かした地域づくりを真剣に考え、外部企業や大学とうまくつなげることで人材育成に成功した事例。 鎌倉市の事例 地域通貨アプリを活用し、関係人口である観光客がより地域に関わりを持つ環境を構築し、地域の活性化につながった事例。 鯖江市の事例 JK 課という、メンバー全員女子高生の街づくりチームが先に事業目的や結果を求めず面白いことをすることだけを目的に、市内公共事業のプロデューサーとして活動することを認め、市の活性化につながる様々なアイデアを実際に行っている事例。	
■提言・その他（本市の施策等にどのように活用すべきか など） 自分たちの地域づくりは自分達が真剣に考え、取り組む姿勢が他の地域の方には魅力に映り、関係人口につながるということ。他の地域の方が軽々に、地域を変えてくれるということはある得ないということ。地域づくりを真剣に考えると様々なチャレンジも必要となる。鯖江市の事例でもあったが、首長をはじめ議会も結果ありきで事業目的や、事業成果の説明や結果を求めることだけに終始しがちな地方自治のこれまで通りの在り様では、魅力のある地域づくりにチャレンジすることの発想に至らないのではないかと考える。時には、若い世代や、移住者、その他 多様な人材にアイデアを出してもらい、真剣にそのアイデアに向き合い、失敗を恐れず取り組む姿勢が必要であると考え、魅力ある地域を作ることにつながると思う。地域づくりに先進的に取り組み、成功事例として取り上げられている市町には、様々な『従来通り』や『先例主義』を打ち壊す首長の覚悟や、議会の理解度なども必要であったろうし、成功に至るまでには様々な失敗も数多くあったと思う。これまででない取り組みを求めることと、成功につながる結果のみを求めることは相反することであるし、結果として何もできなくなるのではないかと考える。	